

京都市基本構想における関連記述

保健医療



～心身ともに健やかにくらす～

すべての市民が，その生涯を通して心身ともに健やかにくらすよう，市民ひとりひとりの心身の健康づくりへの意識を高めるとともに，総合的な保健予防対策や衛生的な生活環境づくりによって健康に生活できる環境を整備し，適切な保健・医療サービスが受けられるまちの実現を目指す。

これまでの主な取組

- ・「京都市民健康づくりプラン」を策定し，総合的な健康対策を推進。
- ・「京都市たばこ対策行動指針」・「京（みやこ）・食育推進プラン」・「京都市口腔保健行動指針（歯ッピー・スマイル京都）」・「京都市病院事業改革プラン」，「京都市動物愛護計画（京（みやこ）・どうぶつ共生プラン）」を策定，推進

平成13年度～24年度

京都市民健康づくりプラン

基本理念 「すべての市民が心身ともに健やかにくらすまち京都」の実現

- 壮年期死亡の減少
- 健康寿命^{※1}の延伸
- 生活の質の向上

平成18年度～22年度

京（みやこ）・食育推進プラン

幼児の食体験教室



平成17年11月から実施

新型インフルエンザ対策



論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(機会)は？ 放置できない問題(脅威)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？ 克服すべきこと(弱み)は？

機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児健診受診率が増加傾向 ○医療制度改革に伴い，生活習慣病対策として特定健診・特定保健指導が開始された ○乳がん検診受診率，HIV 検査件数などの増加 ○食中毒発生件数は減少傾向 ○犬・猫の引取数は減少傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ○合計特殊出生率の低下 ○生活習慣病の増加 ○国際観光都市であるため，輸入感染症，動物由来感染症の発生が懸念 ○ノロウイルスなど，新たな食中毒菌が台頭 ○若者の薬物乱用，性感染症が増加 ○依然として自殺者数が多く，原因は様々であるが，うつなどの精神疾患が伴うことが多い
強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○医師の数が多い ○看護師など医療従事者が増加 ○健康づくりに関する市民意識がやや高い ○インフルエンザ予防接種者数が増加 ○保健医療サービス機関が比較的豊富 ○保健所及び市立病院を中心に様々な事案に対応してきた実績がある。(新型インフルエンザ，食中毒等) ○京野菜，京料理など優れた食文化がある ○学区を中心とした独自のコミュニティが存在する ○高度医療を担う複数の大学病院や市立病院が存在する 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳児の死亡率が高い ○母親の不安感が減少傾向にあるものの，依然として高い ○観光客数が多く，他都市と比較すると，食中毒患者が多い ○厳しい国保財政

論点2 政策の基本方向

◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？

これまでの動き

<現在の方向性>

生活習慣病の予防と健康づくりの推進

ひとりひとりが「健康」への目標をもち，食生活，運動，ストレス，飲酒，喫煙等の生活習慣を改善することが予防につながります。「健康は守るもの」から「健康はつくるもの」という積極的な視点にたって，健康づくりを推進します。

ひとりひとりが健康づくりへの意欲を高め，個人の選択によって主体的な健康づくりが進められるよう，行政だけでなく多くの関係する機関・団体等との連携によって積極的な環境づくりを推進します。(京都市民健康づくりプラン)

健康危機管理の更なる強化

新型インフルエンザ，食中毒等市民の健康を脅かす事案に対し，迅速，的確に対応できる体制づくり，マニュアル策定，訓練などの事前準備を行います。

<政策を進めるうえでの悩み>

- ・健康づくりは情報提供だけでなく，動機付けと行動変容に結びついて，はじめて施策効果が出るため，多面的かつ根気強い取組が必要
- ・国際観光都市であるため，輸入感染症，動物由来感染症の発生が懸念
- ・厳しい国保財政

<関連データ>

- ・がん，心疾患による死亡率はいずれも増加傾向
- ・産婦人科に従事する医師数は政令市でトップだが減少傾向
- ・観光都市である本市の特色として，観光客の食中毒患者数が市民の食中毒患者数に加わることであり，他都市と比べ，単位人口当たりの患者数が多い傾向

論点3 市民と行政の役割分担と共汗

◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

論点4 10年後に目指すべき姿

◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？